

連携医療機関のご紹介

今回は、広島市中区吉島にて歯科医師と協同して地域医療に取り組まれている『おひさま脳神経外科・歯科』の脳神経外科医師 高安 武志 院長先生です。



高安武志院長

おひさま 脳神経外科・歯科

〒730-0823
広島市中区吉島西1丁目22-13
電話/082-569-5728(脳神経外科)
電話/082-569-6482(歯科)
院長/高安 武志



外観



▲歯科につながる待合スペース



MRI▶

○開業されてから現在までのことを教えてください。

医学部卒業後は20年にわたり、主に広島大学病院で脳卒中・脳腫瘍の手術や治療に携わってきました。歯科医師として地域医療に力点を置いて活動されていた「医療法人おひさま」の辰本将哉理事長の「院内で医科歯科連携が可能になる医院をつくりたい」という理念に共鳴し、令和5年にこちらで開業しました。吉島地区は脳関係の専門医療機関が少なく、診療所間での協力・連携を取らせていただくことも増えています。総合病院での救急治療、リハビリ入院を経て、地域に帰って来られる方のご紹介もあります。

○貴院の特徴を教えてください。

やはり脳外科と歯科が同時にアプローチできることが特色です。脳外科では、頭痛、認知機能低下、眩暈(めまい)での受診が多いです。光南にある、おひさま歯科本院及び当院歯科は、訪問歯科診療も行います。口腔の状態が悪いと、認知機能低下、その他、全身状態の悪化や低下も示唆されます。街の医院で脳外科というと患者さんには馴染みが薄いかもかもしれませんが、歯科受診を契機に、必要な方は脳外の受診をお勧めすることは、強みではないかと考えています。最新のMRI設備も備えており、脳・脊髄そして膝を始め、広く整形外科領域の画像を撮影することも可能です。総合病院、また地域の医療機関の先生方にも広く撮影を依頼していただければと考えています。

○毎日の診療で大切にされていること、やりがいを教えてください。

開業して日がたつにつれ、地域医療の場で、比較的長いスパンで診療することを通じ、ご本人の口から、「だんだん良くなってきました」等のお言葉を聞く機会も多くなりました。例えば老々介護の世

帯で、介護をしていた奥さんの方が脳血管障害を発症され、手が不自由になられ、これまでやってあげていた夫の歯磨きが不十分になってしまう、そのような場面に出会い、スタッフみんなでどのようなアプローチができるかを考えていく、そのようなことにやりがいを感じています。

○県病院はどんなところですか。

一番頼りがいのある病院です。脳外科、脳神経内科はもとより、様々な診療科の医師が多数在籍されていて、急患をフットワーク良く受け入れていただいています。地域の医療ニーズに速やかに、柔軟に対応していただける病院だと思います。

○最近のトピックスについて

医院の奥にスタッフ用空間として「MOON LIGHT COFFEE」と名付けたスペースを設けています。名の由来は、法人の方針名「おひさま」の対比で「お月さま」という意味が込められています。先日はここで地域の介護分野の方と勉強会を催しました。法人として院内、地域のスタッフ間交流を大切にしていきたいということがあり、それを反映した空間です。



スタッフ用空間「MOON LIGHT COFFEE」

【取材後記】

高安院長は活躍の場を救急・急性期医療から地域医療へ移されたことにより、居宅介護支援事業所や訪問看護等との連携の必要性を感じる機会が増えておられます。こうした状況に真剣かつ新鮮なお気持ちで向き合われている姿が印象的でした。

もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

患者さん満足度向上を目指して

アンケート調査にご協力をお願いいたします



実施期間

11/18日▶12/20日

● 外来患者さん用 回収箱

中央棟1階ロビー 3カ所 ★



● 入院患者さん用 回収箱

各病棟受付

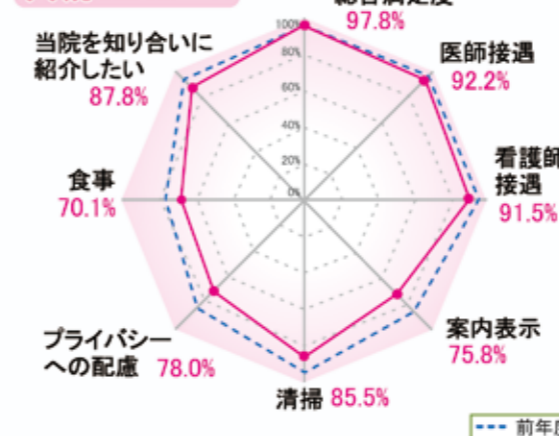
当院では、患者さんのご意見を幅広くお聞きし、医療の質と患者サービスの向上を図るため、患者さん満足度アンケートを毎年1回実施しております。

令和6年度の調査期間は11月18日(月)から12月20日(金)までです。

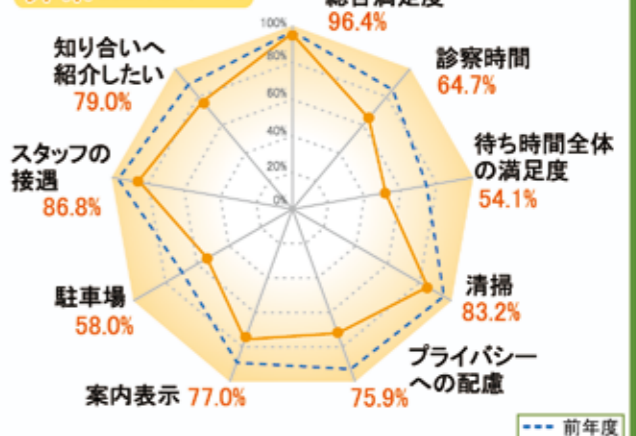
お寄せいただいた貴重なご意見は、院内全体で受け止め、より一層、病院の改善に取り組んでまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。昨年度の調査結果は次の通りです。

令和5年度 患者さん満足度アンケート調査

入院 調査母数 529人



外来 調査母数 2,239人



『総合満足度』は、入院患者、外来患者ともに、高い数値を維持しています。その他の項目については、回答項目の「どちらとも言えない」を「ふつう」へ変更したところ、「ふつう」とご回答いただいた割合が、全体的に増加しました。このため、一見して満足度が低下しているように見えますが、実際には「やや不満」「不満」と回答された割合も、全体的に低下しました。

院内では、調査結果や寄せられたご意見をもとに、具体的な対応の方向性を検討してまいりました。具体的な対応状況は、次頁でご紹介します。

県立広島病院からのお知らせ

11月のがんサロン

開催日時 令和6年11月22日(金) 14:00~15:00
 場所 新東棟2階 総合研修室 及び オンライン
 テーマ 『肺がんを学ぼう!』
 講師 呼吸器内科 部長/益田 健
 対象 がんを経験された方やそのご家族(当院受診歴不問)
 問合せ先 がん相談支援センター
 ☎082-256-3561
 hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp



がん医療従事者研修会

開催日時 令和6年11月12日(火) 18:00~19:30
 場所 県立広島病院 中央棟2階 講堂 及び ZOOM 開催
 テーマ 『胆道癌の治療最前線』
 演者 消化器・胆膵内科 部長/芹川 正浩
 消化器・乳腺・移植外科 部長/橋本 昌和
 臨床腫瘍科 部長/児玉 美千世
 対象 医療従事者等
 問合せ先 総務課管理係(担当/安原)
 ☎082-254-1818(内線/4271)

患者さんからのご意見 回答 & 改善例

待ち時間が長すぎる

待ち時間の短縮につきましては、令和4年度に中央採血室の体制を増強するなど、継続して取り組んでいるところです。
各医師の診察状況と採血枠の関係の調査結果をもとに、外来予約数と中央採血室での処理件数の影響を分析して構造的な原因を突き止め、効果的な対策を検討してまいります。

入院時、病棟のWi-Fiがつながりにくかった

特に満足度が低かった3病棟の中継器を点検し、通信速度を測定しました。
東7病棟は通信速度は良好でした。南4病棟は通常使用の範囲においても通信速度が遅すぎると判断されたため、中継器を増設しました。西6病棟は中継器を点検して正常作動させた結果、通信速度は良好でした。なお、Wi-Fiの通信速度は、動画鑑賞など大容量のデータを必要とする行為や、同時に接続して通信する機器数など、使用状況によって大きく影響を受けます。ご利用の際は、あらかじめご了承ください。

医師によっては詳しい検査結果を、書面で受け取ったことがない

検査結果は印刷して患者さんへお渡しするよう、院内で強化キャンペーンを行い『結果を提供することで、患者さんが治療に対して安心できること』『医師には説明責任があること』などを啓発いたしました。

職員の態度(接遇)がわるい。

接遇の全体研修を継続して行うとともに、接遇や身だしなみの相互チェックや、接遇事例のグループワークなど、現在実施している自主的な取り組みを掘り起こし、効果的な形で職種別に展開していくことを検討しています。

外来・入院中と、主治医がコロコロ変わる

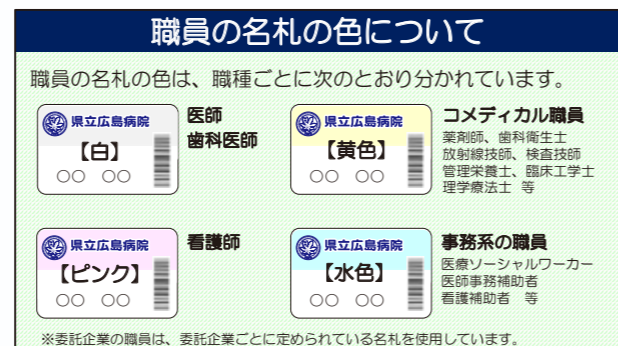
ご意見を受け、複数主治医制に関するメリットや、よくあることなどを、お伝えしやすいう、当院のご案内ポスターをわかりやすくしました。
当院では、ひとりの患者さんに複数の主治医があたることで、ある主治医が救急対応中や手術中でも、他の主治医が対応できるようにしております。そのため、患者さんの外来診療や入院中の病状説明などにおいて、異なる医師が対応することがありますが、全員が主治医チームとして患者さんの病状を共有しておりますので、ご安心ください。



院内掲示ポスター

看護師と他の職種の区別がわかりづらい

職種別に分かれている当院職員の名札の色について、中央棟1階のロビーに設置している会計モニターでお知らせすることを始めました。
当院ホームページや、病院公式X(旧 Twitter)にも掲載しました。



脳心臓血管カンファレンス

Cardio-Cerebral Infarction (CCI)

脳心臓血管センター長 / 上田 浩徳

急性心筋梗塞 (AMI: acute myocardial infarction) と急性の脳梗塞 (AIS: acute ischemic stroke) が同時に発症する病態を2010年に Omar らが Cardio-Cerebral Infarction (CCI) として報告しています。今回、我々も右総頸動脈閉塞による AIS と広範囲前壁AMIの同時発症の症例を経験しました。
CCIは希な病態ではありますが、その発症頻度に関しては、脳梗塞の0.009 ~ 0.52%に認められたとの報告やAMIを含む急性冠症候群患者のコホート研究において院内脳卒中の発生率は0.9%であったとの報告があります。CCIの原因としては、①心原性塞栓(左室収縮不全や壁運動低下に伴う左室内血栓、心房細動に伴う左房内血栓、卵円孔開存による深部静脈血栓や右室血栓が原因の奇異性塞栓など)によるもの ②AMI発症時の心原性ショックによる低血圧から脳灌流圧の低下が生じる血行力学的なもの ③大動脈の異常(大動脈解離や大動脈壁プラークなど)によるもの ④その他血栓性素因によるものなどが想定されています。

治療法に関しては、明確な治療方針を示したガイドラインはないのが現状です。海外では、発症4.5時間未満のAISと発症12時間未満のAMIの同時発症の場合に血行動態的に不安定な場合は緊急経皮的冠動脈形成術(PCI)を優先し、血行動態的に安定している場合は静注血栓溶解(rt-PA)療法を優先し、主幹動脈閉塞のAISの場合は機械的血栓除去術を施行するとの報告があります。問題点としては、①心破裂の危険性が高いAMI症例では血圧を低く保つ必要があるが、AISを悪化させる可能性がある ②AISにおけるrt-PA療法は心破裂のリスクを増加させる ③rt-PA療法後、PCI施行した場合に内服する二剤抗血小板薬は脳出血リスクを高めるなどがあります。
当院においては、AIS症例で心電図検査によってCCIと判断された場合には、脳心臓血管センターのそれぞれの専門スタッフにより、迅速に、AMIとAISの重症度と治療の緊急性を評価し、治療に対応する体制をとっています。



外科医の独り言...no.157

— 死に際の後悔 —

酷暑が続く8月末、徳島で開催された病院関連のある懇親会で挨拶をする機会がありました。アルコールが随分と入っていたこともあり、大勢の医療関係者の前で大きな声で熱く、そして誇らしげに広島県をアピールしてきました。それは3大プロスポーツでの広島勢の活躍が私の背中を押したのです。「今年の5月、Bリーグで、広島ドラゴンフライズが西地区3位から下剋上で年間チャンピオンに輝きました。サンフレッチェ広島は首位町田の背中が見えてきました。そしてカープは6年ぶりのリーグ優勝がすぐ手の届くところに来ています。今年は広島が3大プロスポーツを制覇します。広島は今、全国で最も熱く燃えています」と、ぶち上げました。ところが、この挨拶が悪かったのが、その直後からカープの歴史的な大失速がはじまり、あとはサンフレッチェに期待するしかありません。

先程、インターネットを見ていたら、興味深いタイトルが目に入り飛び込んできました。それは「死の前に患者が明かす最も一般的な5つの後悔」というものです。多くの終末期の患者さんを診てきたある医師が、人生の終わりに近づくにつれて数多くの患者さんが最も後悔していたことを最後に発した言葉として記録してきたものです。

1つ目は、愛する人たちと十分な時間を過ごさなかったことです。家族に対する愛情が強ければ強いほど、実は長い時間一緒に過ごしていたとしても、「もっともっと」と後悔することになるのかもしれませんが、この後悔は言い出せばきりがありません。でも、おそらく私は現状のまま後悔はしないと思います。

2つ目の後悔は、恐れに立ち向かわず、もっとリスクを取らなかったことだそうです。あの時に勇気を出してチャレンジしていれば、もっと人生は変わっていたかもしれないという後悔です。今年のカープは、若手の起用が中途半端

だったという批判も聞こえてきます。結果が出なくても、もう少し辛抱して若手を使い続けたほうが良かったかなと新井監督は後悔しているかもしれません。

3つ目は、働きすぎたことだそうです。仕事人間だったので家族と一緒に過ごす時間が作れなかったという一つ目の後悔にも共通しているようです。私も最近妻からは働きすぎだ、と言われることがありますが、当の本人はそんなことを全く思っていないので、私が終末期になった時にはそんな後悔の言葉は絶対に口にはしないと思います。

4つ目は、知らないことに対して勇気を持たなかったことだそうです。この意味がよくわかりませんが、知らないことを正直に知らないと言えなかったこと、という意味でしょうか？知らないことを知ったふりをして何かひどい目にあったのでしょうか？医師は、患者さんから色々と質問され、わからないことも沢山あります。これを正直にわからないという言葉で連発すると患者さんは不安になります。私はこれまでわからないなら自分なりの考えを患者さんに伝えて、わからないことを後で調べて、また患者さんに説明するようにしてきたので、死の間際でこの4つ目を後悔することはないと思います。

5つ目は、現在を生きなかったことだそうです。私にはどういう意味なのか理解できないので後悔の仕様もありません。

以上、死の間際に発する一般的な5つの後悔のどれも私には当てはまらないということがわかりました。ということは「もう思い残すことはない」といって死ぬのでしょうか？いやまだまだわかりませんが、後悔する前に一晩眠れば何があったのかを忘れてしまう私には「死に際の後悔」という言葉はまさに死語かもしれません。



院長 / 板本 敏行

当院のドクターカーが展示されました

10月5日に、県立広島産業会館で開催された「南区安心・安全なまちづくりフェスティバル」にて当院のドクターカーが展示されました。本イベントは防災や防犯について楽しく学ぶことを目的に開催され、パトカーや白バイ、消防車、救急車といった車両の展示に加え、ステージ発表が行われ、多くの人で賑わいました。当院のブースではドクターカーの試乗体験、ユニフォームや出勤時の資機材展示を行いました。

参加した子どもたちは、ユニフォームや白衣、聴診器等を身に付けて、ドクターカーの試乗や記念撮影を楽しんでいました。今後もイベント出展等を通して、広く県民の皆様へ、当院の救急医療やドクターカーについて伝える活動に取り組んでまいります。



ドクターカー

試乗も出来ます